

=====
本メールマガジン[NEE Mail Magazine]は、経済教育ネットワークより会員の
皆様にお送りしております。
=====



◆ NEE Mail Magazine 128号 ◆

-----2019-9-2◆◇

長月、虫すだく季節の9月です。

2学期のはじまりです。地域によってはすでにはじまっている学校もありますし、
授業時数の関係で、31日前に新学期という学校も結構多いかと思います。外国に
目を転ずると、9月新学期の地域が欧米を中心に多数あり、それに合わせて9月
入学生を迎える学校もあるかもしれません。

新学期を迎えて、生徒には、「宿題をいつやった」か聞いてみたらどうでしょう。

まだやっていないという強者には、「いつなら出せる？」と聞くとよいかもかもしれません。
コミットメントです。

そんな今月もネットワークの活動を報告するとともに、授業に役立つ情報を提供
いたします。

【今月の内容】

【1】最新活動報告

19年8月の活動やニュースを報告します。

【2】定例部会のご案内・情報紹介

部会の案内、関連団体の活動、ネットワークに関連する情報などを紹介します。

【3】授業のヒント「探究活動のフォーマット」

【1】最新活動報告

■夏休み経済教室が終了しました。

ネットワーク活動のメインのイベントとも言える、本年度で13回目になる

「夏休み経済教室」(東京証券取引所と共催)が無事終了しました。

暑い盛り、参加いただいた先生方、講演講師の先生、発表者の方々のご協力に
感謝いたします。

各会場の参加者は以下の通りです。

大阪会場 初日 85名(105名)、二日目 80名(102名)

東京高校対象 初日 143名(142名)、二日目 147名(124名)

東京中学対象 初日 128名(145名)、二日目 120名(129名)

全体 703名(747名) カッコ内は去年の数

全体での参加数は、去年に比べて44名減でした。

高校は新テストと労働、中学は新学習指導要領をテーマに、講義、実践報告・提
案、

講演と多彩なプログラムが展開されました。

教室の記録は整理がつき次第、ネットワーク HP に掲載いたしますので、ご覧ください。また、参加者のアンケートや要望などの分析は東京部会・大阪部会等で検討して、報告いたします。

【 2 】定例部会のご案内・情報紹介

<定例部会のお知らせです。(開催順)>既報

■東京部会(No.111)を開催します

日時:2019年9月21日(土) 14時00分~17時00分 (今回は土曜昼間の開催)

場所:慶應義塾大学三田キャンパス研究室棟 446 会議室

■大阪部会(No.65)を開催します

日時:2019年9月28日(土) 18時00分~20時00分

場所:同志社大学 大阪サテライト(予定)

■札幌部会(No.21)を開催します

日時:2019年10月5日(土) 14時30分~17時00分

場所:キャリアバンク セミナールーム

札幌市中央区北5条西5丁目7 Sapporo55ビル5階

<関連団体のイベント紹介です>

■金融広報中央委員会主催「金融教育に関する小論文・実践報告コンクール」

(既報)

教員対象の「金融教育」に関する小論文・実践報告募集、中学生、高校生等対象の作文・小論文コンクール募集、まだ間に合います。

【 3 】授業のヒント「探究活動のフォーマット」

夏休み経済教室では探究活動の実践報告が注目を浴びました。

今回は、探究活動を行う場合の大きな枠組みのヒントを紹介します。これは、私のオリジナルではなく、最近翻訳が刊行された、ヴァレン・レイブルック『選挙制を疑う』

(法政大学出版局)からヒントを得たものです。

(1)どんな本か

レイブルックはベルギー生まれで考古学や歴史学の学位を持つ作家です。内容は、現在の民主主義の危機を抽選制議会によって解決しようと提言している政治領域の本です。

抽選制議会の提言そのものは政治学の領域で衝撃をもって受け止められ、多くの新聞の書評欄でもとりあげられたので読まれた先生方も多いかもしれません。内容以上にこの本の注目すべき点は、問題把握から調査検討の活動を経て、問題解決を構想するという探究活動の流れを提示している点です。

(2)どんなフォーマットになっているか

全体が四つの部分に分かれています。

第一部(第1章)は、症状と銘打たれた部分です。

第二部(第2章)は、診断の部分です。

第三部(第3章)は、病因の部分です。

第四部(第4章)は、治療の部分です。

この流れは、丁度病気にかかった患者が病院に来たときの医師の仕事の流れをそのまま表現しています。

この本の症状の箇所では、民主主義に対する正当性と効率性に危機、民主主義を希求しているのに信じていないという症状が見られるとしています。

診断では、なぜこうなったのかをポピュリスト、テクノラシー、直接民主主義者がそれぞれ、「責任は〇〇にある」と診断していることが紹介されています。

病因では、それぞれの診断の根拠を、歴史的にたどり、古代とルネサンス、18世紀、19-20世紀と原因を探してゆきます。

治療では、各国での取り組みや各種の提言が検討されて、最後に抽選制に基づいた民主主義の青写真が提起されてゆきます。

(3)どのように使えるか

この流れは探究活動の各プロセスで適用可能でしょう。

例えば、「若者の労働環境をどう改善するか」というテーマの探究活動の場合、

まず症状を探ることから始める必要があります。どんな問題を労働現場、労働市場で若者が抱えているか、現状を知らなければ話になりません。かつ、それが病気であるという認識を持つことも大事になります。

次は、なぜこんな状態になったのか、その診断を試みます。ここでは、こうなった理由を述べる人たちの見解を探ることになります。社会の責任だ、時代の責任だ、若者自身の責任だ、政治家や官僚の責任だ、企業の責任だなど多様な責任者探しができるはずです。

そして、病因をさらに探します。それぞれの診断の背景を分析します。歴史的にたどることもできるでしょうし、比較して病因を探することもできるかもしれません。データの分析から病因を探することもできるかもしれません。

最後は、治療です。ビジョン、提言、青写真など、最初の症状を解消する手段（薬、手術、リハビリなど）を提案します。経済の観点からは治療にはお金がかかることも注意しておいたほうがよいでしょう。

このように、かなり形式的に四つの段階を設定することで、無理なく見通しをもって探究活動に取り組むことができるはずですよ。

(4) 診断、治療には技術が必要

ここまではフォーマットの紹介でしたが、実際の診断、治療には技術が必要になります。

医学であれば、医師の診断技術、病気の原因を探るための膨大な知識のストック、症状から原因を探る推理力などが名医の条件になるでしょう。また、外科などの手術の場合は的確な腕や最新の器具が必要になります。

生徒の探究活動に、そこまでの要求は難しいでしょう。

とはいえ、最低の知識、病因をさがす理論や推論のための方法は教えておく必要があります。

今使われている教科書でも、調査活動のためのかなり親切なスキルのページがあります。それを活用して、社会の病気を治すつもりで取り組ませるとよいでしょう。

(5) そんなにうまくゆくか

本当にこの流れでできるのと思われている先生方も多いかも知れません。

まずは、私たち教員自身が、この手順、フォーマットで現状を分析してみたらどうでしょう。

さしあたりは、今の学校現場の働き方の症状、診断、原因、治療をやってみることを勧めます。それができて、生徒にも自信をもって探究活動に取り組ませることができるかもしれません。(新井)

【 4 】編集後記(みみずのたはこと)

夏の経済教室に参加して、ちょっと違和感をもったのは、生徒を「子どもたち」と表現している先生方が多かったことです。この傾向はもうかなり前からのもので、私が気づいたのは20年近く前になりますから、すでに定着した使い方かもしれない。今や大学生も学生ではなく「こどもたち」になってしまうのかもしれない。(新井)

=====
登録に心当たりのない方、今後配信を希望されない方は下記会員ページより
お手続き下さい。

<http://www.econ-edu.net/aboutus/contact.html>



編集・発行 : 経済教育ネットワーク

————— (C) Network for Economic Education ◆◇